第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

リュウキュウオオコノハズク

Otus semitorques pryeri (Gurney, 1889)

嵩原建二（沖縄野鳥研究会）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：嵩原建二，2026．リュウキュウオオコノハズク．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 859-863．

Citation: Takehara, K., 2026. *Otus semitorques pryeri* (Gurney, 1889). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 859-863.

フクロウ目 Strigiformes　フクロウ科 Strigidae　　日本固有

リュウキュウオオコノハズク

***Otus semitorques pryeri* (Gurney, 1889)**

カテゴリー判定結果　情報不足（DD）　①

基準 A:　データ不足	基準 B:　データ不足	基準 C:　データ不足	基準 D:　データ不足	基準 E:　—

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

①どの生息地においても生息密度が低く希少である。

【判断理由】

詳細な個体数調査が実施されていないことで、その個体数は不明である。森林地域においては広く分布しているものと考えられるが、どの生息地でも密度は低い。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

全長約 25 cm。沖縄島とその属島の屋我地島、慶良間諸島の阿嘉島、八重山諸島の西表島や石垣島に生息している。本亜種は、羽色が赤錆色がかる暗褐色の地で、複雑な横斑や縦斑が見られる。また、趾に羽毛が生えていないのが大きな特徴である。繁殖時期は 4～5 月で、山地の森林地域や海岸林などの大径木にできた樹洞を使って繁殖する。しばしば、地表に開口した縦穴やヤシ類の枯死木にできたうろなどを利用することもある。

基礎情報

【形態】

全長約 25 cm。北海道から九州まで分布する亜種オオコノハズク（*Otus semitorques*）に似ているが、本亜種は、羽色が赤錆色がかる暗褐色の地で、複雑な横斑や縦斑が見られることでオオコノハズクと区別できる。また、趾に羽毛が生えていないのが本亜種の大きな特徴である。虹彩は赤みがかり、コノハズクの黄色と明瞭に区別できる。耳羽は長めで、後頸は灰色がかる黄褐色を呈し、首輪状に見える。全長は本亜種のほうがやや大きい。

【生活史】

林道沿いや畜舎周辺などに出てきて、ネズミ類や小鳥類、昆虫類などを餌にしている。最近の食性に関する調査では、同所的に生息するリュウキュウコノハズクとの餌の競合を避けるため、リュウキュウコノハズクが昆虫類（特に直翅目等）を主たる餌資源にしているのに比べ、本亜種は昆虫類の中でも餌とする対象がより広く、またサイズの大きい哺乳類や鳥類なども餌としているとの指摘がある。亜種オオコノハズクと異なり、一年を通して森林内にすむが、海岸林や市街地の残存林などでも繁殖していることから、まとまった森林があれば市街地近くでも生息可能であろう。繁殖時期は 4 月から 5 月頃で、山地の森林地域や海岸林などの大径木にできた樹洞を使って繁殖する。しばしば、地表に開口した縦穴やヤシ類の枯死木にできたうろの他、コンクリート建物の 1 階階段下などを営巣場所として利用した例がある。

【生息環境】

沖縄島北部の国頭地域や本部半島、名護市から恩納村などの森林地域、沖縄島中部の沖縄市や島南部の那覇市などに残存する森林地域に生息する。沖縄島南部では那覇市の都市公園等にある残存林などで繁殖したことが知られている。また、八重山諸島の西表島、石垣島などの常緑広葉樹林の大径木が見られる薄暗い森林に生息する。しかしながら、最近西表島や石垣島からの確認例はない。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林，市街緑地，農業用水路，小河川
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

沖縄島及びその属島の屋我地島、慶良間諸島の阿嘉島、八重山諸島の西表島と石垣島に留鳥として分布する。種オオコノハズクは、中国本土から海南島、ベトナム、タイ、マレー半島、大スンダ列島、ボルネオまで、そして、さらに中国東北部からアムール地方、ウスリー地方、朝鮮半島、サハリン、日本、台湾まで分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

沖縄島とその属島の屋我地島、慶良間諸島の阿嘉島、八重山諸島の西表島や石垣島から

の記録がある。なお、宮古島でも記録が見られるが迷鳥とされる。種オオコノハズクは、他に与那国島からも記録があるが、亜種レベルでは特定されていない。

【生息地の現況】

繁殖に適した大径木のある山地域の常緑広葉樹林は、西表島や石垣島ではまだ広域に残存している。沖縄島では 1980 年代に島北部地域でダム開発や森林伐採等が急速に進行し、森林面積の減少傾向が見られたが、最近ではダム開発も一段落し、森林は回復傾向であり、森林伐採の面積も縮小している。沖縄島北部の国頭地域や名護市、宜野座村、恩納村、本部半島などの地域では全体的に森林の林齢がすすみ、さらに森林の回復傾向が認められる。おそらく、この傾向は石垣島や西表島でも同様であろう。

【個体数の現況】

種オオコノハズクは、他のフクロウ類のように規則的に遠くまで通る鳴き声をださないことから、夜間鳴き声だけで個体数を推定することに困難さがあり、個体数等その詳細は不明である。沖縄県内では全島的なプレイバック調査など詳細な生息調査が必要であろう。

存続を脅かす要因

存続を脅かす要因は、生息と繁殖に適した森林の減少である。しかも生きた動物（小型哺乳類、小鳥、昆虫類など）だけを餌としているので、農薬や除草剤などによる餌の減少と汚染も個体群の維持に対して大きな脅威である。さらに、沖縄島北部では育雛期の低い位置での営巣場所により外来種マングースなどの捕食を受けている可能性が指摘されている。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，交通事故，農薬汚染/化学物質汚染，その他（沖縄島では外来種のマングースによる雛の捕食が指摘されている）
	（現在）	森林伐採，交通事故，農薬汚染/化学物質汚染

特記事項

日本産鳥類目録改訂第 6 版及び第 7 版では、オオコノハズクの種の学名には *Otus lempiji* が採用されていたが、第 8 版では *Otus semitorques* が採用された。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第４次 2019：	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第４次 2018：	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第４次 2017：	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第４次 2015：	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU

第４次:	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第３次:	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第２次:	リュウキュウオオコノハズク	*Otus lempiji pryeri*	VU
第１次:	リュウキュウオオコノハズク	*Otus bakkamoena pryeri*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

鳥獣保護管理法

参考文献

- Brazil, M., 2009. Birds of East Asia, China, Taiwan, Korea, Japan and Russia. Princeton University Press. Princeton and Oxford. 528pp.
- 環境省自然環境局野生生物課（編），2002．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー 2 鳥類．自然環境研究センター，東京．278pp.
- Mikkola, H., 2012. Owls of the world a photographic guide. Christpher Helm. London.
- 日本鳥類目録編集委員会，2000．日本鳥類目録改訂第 6 版．日本鳥学会，帯広．345pp.
- 日本鳥学会，2024．日本鳥類目録改訂第 8 版．日本鳥学会，東京．506pp.
- 沖縄県編，2005．沖縄の絶滅のおそれのある野生生物（改訂版）．沖縄県自然保護課，那覇.
- 沖縄県編，2017．改訂・沖縄の絶滅のおそれのある野生生物第 3 版動物編．レッドデータおきなわ，沖縄県自然保護課，那覇.
- 沖縄県立博物館，2002．改訂沖縄県立博物館収蔵品目録，下巻（1981-2000 年度）．沖縄県立博物館，那覇.
- 沖縄野鳥研究会編，2010．改訂沖縄の野鳥図鑑．新星出版，那覇.
- 嵩原建二，2002．沖縄島で留鳥として生息する希少な 3 亜種の繁殖記録について．沖縄県立博物館紀要，(28): 1-11.
- Toyama, M. and T. Saitoh, 2011. Food niche differences between two syntopic scops owle on Okinawa Island, Japan. Journal of Raptor Research, 45(1): 79-87.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Otus semitorques pryeri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Otus semitorques pryeri* is listed as DD under criteria ①.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due

to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category. ①Low population density and rarity are exhibited in all habitats where it occupies.	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Urban green area, Agricultural ditch, Small river
Threat types:	Logging and wood harvesting, Vehicle collision, Pesticide/Toxic chemical pollution
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.





執筆者:	嵩原建二（沖縄野鳥研究会）
Author:	Kenji Takehara

公表年月：2026 年 3 月